



Chance for Children

公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン

ANNUAL REPORT

2021 2022

年次報告書

多様な学びを
すべての子どもに



特集 2021年度クーポン利用者の声

今度は自分が 誰かのために

取材/玉邑 詩織 編集協力/望月 優大
写真/平井 慶祐

大学卒業後は「誰かのためになる仕事をしたい」。この春、無事に進学した北川綾乃さんを訪ねると、乗り越えてきたいくつもの壁、折れそうなときに支えてくれた様々な大人との出会い、そして将来への思いについて語ってくれました。これまでの経験も糧にして、今度は自分が――。

入れなくなったプール。 支えてくれた人たちとの出会い

綾乃さんにはプールに入れない時期があった。7歳で被災したあとのことだ。転校先の学校で先生から入るように言われてもどうしても無理だった。怖くて仕方がなかった。黙祷

のためのサイレンが鳴ると、めちゃくちゃになった地元の光景がフラッシュバックしてくる。大泣きしたこともあった。

スクールカウンセラーさんが助けてくれたのはそんなときだった。彼女の様子を心配した担任の先生が薦めてくれたという。「魔法みたいだなと思ったんです。たった1回のカウンセリングでも、傷が一気にふさがって」。この不思議な体験は、綾乃さんの心に大きな印象を残した。

スタディクーポンとの出会いも大きかった。きっかけは母の応募。中学で同級生との人間関係に悩んでいた

北川 綾乃さん (18歳) 仮名

クーポン利用期間
2017年7月～2022年3月

岩手県出身。小学1年で被災。自宅が全壊し、二度の転校を経験した。現在は母と二人で盛岡市内に暮らす。中学2年から今年3月の高校卒業まで、スタディクーポンを利用して学習塾と英会話教室に通った。4月からは県内の大学に進学し、国際系の学科で学んでいる。

頃だ。クーポンを使って通い始めた塾は、学校の外側で安心して学べるもう一つの居場所になった。

「学習塾の先生は、勉強の話だけじゃなくて、今日学校でどんなことがあった？と聞いてくれて。いじめにあったときも心の支えになるような言葉をかけてくれました」

一番大きかった ブラザー・シスターの存在

そんな綾乃さんが「一番大きかった」と言うのが、CFCの大学生ボランティア(ブラザー・シスター)との月に一度の電話面談だ。

「学校で辛いことがあって、マイナスの感情を吐き出すこともあったのですが、シスターの梨里子さんは『それは嫌だよ』って受け止めてくれました。嫌なことを言われたらやっぱり傷つくんですけど、でも私には梨里子さんがいるから大丈夫、負けないから大丈夫って思ったりして。すごく自分の自信につながりました」

CFCには綾乃さんが中学2年の頃に将来の夢を語ったスピーチの記録が今も残っている。寄付者が集まる「サポーターのつどい」でのことだ。これまで「すごく人に恵まれてきた」と振り返る綾乃さんは、この頃すでに「苦しんでいる誰かのために」という気持ちを持つようになっていた。

「私は将来、臨床心理士の資格をとり、スクールカウンセラーの職に就きたいです。そして、心が傷ついた子どもが明るく前を向けるように手を差し伸べてあげたいです」(2018年3月「サポーターのつどい」でのスピーチ)

発展途上国の子どものために 学びを支える人に

大学生になった綾乃さんが今強く興味を持っているのが、発展途上国における児童労働問題やフェアトレードについてだ。高校時代にクーポンで通った英会話教室を通じて、日本の外で何が起きているか、もっと知りたくなったという。

「貧しい暮らしの中で勉強したくても仕事があるから勉強できない子どもたちがいて、こういうことがしてみたいと夢が広がっても環境のせいで抑えられてしまう。それは絶対に良くないと思います」。綾乃さんが一番熱く語ってくれたのがこのときだった。

「自分はCFCに支援いただいて勉強に専念できました。自分がしてもらった分、その子どもたちのために何かできないかと思っています。まずは岩手県で、フェアトレードのことを広めていきたいです」▲

COLUMN

母親の思い

クーポンに申し込まれた背景は？

被災後の転校で教科書も変わってしまうので、学習塾に行かせたいと思っていました。ただ、自分の収入だけでは全ての費用を捻出することが難しい状況でした。引越して慣れない環境だったので、学校以外のコミュニケーションの場になればという期待もありました。

綾乃さんの変化は？

英会話教室で新しい世界が広がったようです。また、「ブラザー・シスター」の大学生との面談を楽しんでいたことが本人の明るさにつながったように思います。今は毎日楽しそうに大学に通っています。

大切にされてきたことは？

震災で友人も亡くなりました。生きたかったのに生きられなかった人たちがたくさんいて、その人たちにも夢があって。ずっと泣いてばかりいたら恥ずかしいというか、失礼じゃないように生きたいと思いました。(子どもの学びについても)間違ってもいいのでやってみる、自分に合うところを見つけていければいいなって。



大学では国際系の学科に通い、海外の言語や文化、思想を学ぶ。授業や課外活動に積極的に取り組んでいる。



大学のキャンパスで一枚。日頃学んでいるキャンパスを母に案内する綾乃さん。

1 新型コロナ緊急支援事業 2年間の活動報告 コロナ禍の経済困窮家庭の子どもたちへの緊急支援を実施



2020年度から2年間、これまで活動を続けてきた東北・関西に加え、感染拡大が深刻な東京圏を中心に、臨時で新型コロナ緊急支援事業を実施しました。累計697人(総額9,670万円分)へのクーポン提供に加え、自宅の通信環境に課題がある家庭にタブレットやWi-Fiルーターを無償貸与しました*。2022年度からは、コロナ禍の長期化及び都市部での教育格差拡大等を踏まえ、臨時の活動地域だった東京圏も、東北・関西に加えた恒常的な活動地域とすることとなりました。引き続き、コロナ禍の経済困窮家庭の子どもたちのサポートに邁進します。

*2021年度のWi-Fiルーターの貸与は、株式会社フォーバルテレコムさまが無償でご協力くださいました。



大学生ボランティアは子どもと面談(電話・オンライン)を行い、学習や進路の相談に応じました。

クーポンを利用した子どもの声

コロナの影響で両親が時短勤務となり、私は塾を辞めようと思うこともありましたが、クーポンのおかげで塾を続けることができ、無事に第一志望の高校に合格しました。

中学3年生(当時)/東京都

面談担当の大学生の方には本当に感謝しています。受験で不安な事や気がかりな事を丁寧に答えてくれ、私を信じて励ましてくれた事で受験を乗り切る事ができました。

中学3年生(当時)/宮城県

2 2022年度スタディクーポン利用への応募状況 応募者は過去最多の1,902人

2022年度、CFCが新規クーポン利用者の募集を行ったところ、365人の定員に対し、過去最多となる1,902人からの応募が寄せられ、1,500人以上が落選してしまいました。近ごろは感染拡大の防止と社会経済活動の両立に向けた動きもありますが、応募者アンケートでは、新型コロナの経済的な影響が続いていることが明らかになっています。今後は物価上昇による影響拡大も懸念されます。皆さまには、何とぞ引き続きのご支援をお願いいたします。

クーポン新規利用者数と応募者数

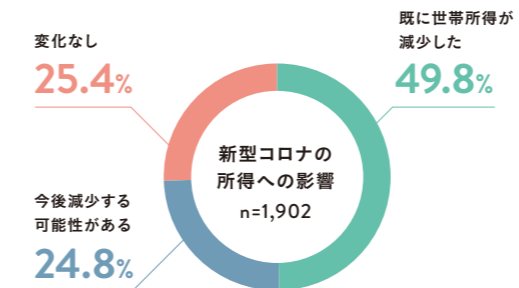


3 アンケート調査結果 経済困窮家庭への新型コロナの影響 新型コロナの家計への影響は長期化し、子どもの教育にも影響

2022年2~3月にクーポンの利用に応募した経済困窮家庭を対象に、新型コロナの影響に関するアンケート調査を実施しました。その結果、新型コロナの経済的影響が続き、子どもの教育にも影響が広がっていることが分かりました。

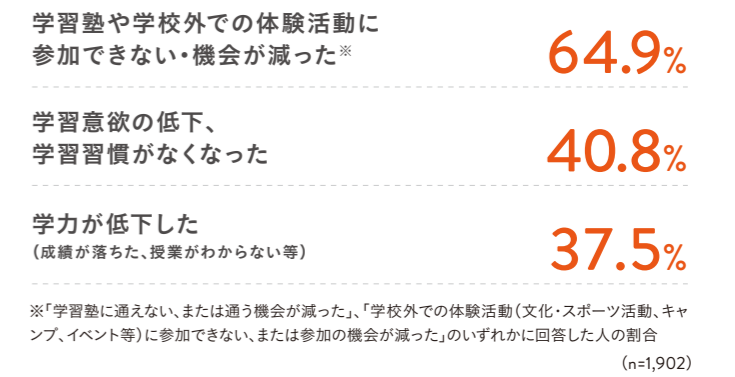
調査結果 ① 所得の状況

経済困窮家庭の約75%が「新型コロナの影響で所得が減少した」(見込み含む)と回答しています。



調査結果 ② 学習や教育の困りごと

長期化するコロナ禍で、学校外の教育機会の減少に加え、学習意欲・学力の低下等、子どもの教育全般に影響が広がっています。



保護者の声

ひとり親で正社員とアルバイトの掛け持ちをしていましたが、コロナで正社員の仕事を失業し、以前より生活水準が下がりました。預貯金も無く毎月カツカツの生活です。

宮城県在住の保護者

高校がよく休校になり、授業が通常進行していると思えない。家計に通塾する余裕がなく、学校の授業頼りで大学進学を目標しているので本人は相当焦りを感じている様子。

大阪府在住の保護者

入学したときからコロナでずっとともに部活もできていないので、何かに打ち込む意欲がなく心配。成績が思わしくありませんが、学校の補習授業がなく困っています。

東京都在住の保護者

子どもの体験格差解消のためのモデル事業を開始

CFCは「多様な学びをすべての子どもに」というミッションに立ち返り、子どもの学習格差だけでなく「体験格差」の問題に本格的に取り組むために、「子どもの体験奨学金ハロカル」を立ち上げます(ハロカル=Hello Culture)。地域のクラブや教室等と協働し、子どもたちが文化活動・スポーツ・体験活動等に参加するための奨学支援、地域のNPOと連携した子ども・家庭へのサポートを行います。



助成・協力: みてね基金

2021年度のCFCの活動実績 (2021.4-2022.3)

CFCのスタディクーポン事業

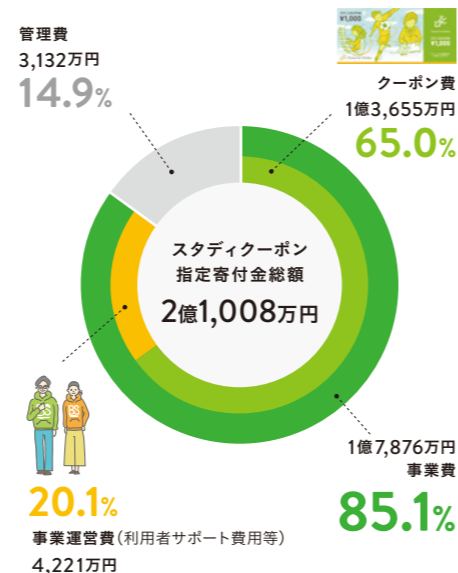
	通常枠	緊急支援枠	合計
事業内容	 経済困難家庭の子どもへのスタディクーポン提供	 新型コロナウイルスの影響を受けた経済困難家庭の子どもへのスタディクーポン提供	
対象地域	東北地域(岩手県、宮城県、福島県)、関西地域(京都府、大阪府、兵庫県) ^{※1}	東北地域(岩手県、宮城県、福島県)、関東地域(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)、関西地域(京都府、大阪府、兵庫県)	
クーポン利用者数	384名	540名	924名
学年別人数	小学生93名、中学生145名、高校生142名、高校卒業生(浪人生等)4名	中学3年生540名	小学生93名、中学生685名、高校生142名、高校卒業生(浪人生等)4名
クーポン利用期間	2021年4月1日～2022年3月31日	2021年5月1日～2022年3月31日	
クーポン給付額	7,768万円	8,100万円	1億5,868万円
1人当たり給付額	小学生15万円、中学1・2年生および高校1・2年生20万円、中学3年生、高校3年生および高校卒業生30万円	15万円	
クーポン利用率 ^{※2}	82.4%	83.3%	82.9%
クーポン利用先数	2,642教室		2,642教室
面談回数	1,620回	855回	2,475回
進路実績 ^{※3}	高校進学率 92.6%(50名/54名) 大学等進学・正規雇用就職率 84.2%(32名/38名) 希望進路達成率 ^{※4} 95.1%(78名/82名)	99.0%(409名/413名)	98.3%(459名/467名) 84.2%(32名/38名) 93.7%(461名/492名)
審査基準	新規 ^{※5} :世帯所得状況、学年 継続:世帯所得状況、学年、当該年度のクーポン利用状況	世帯所得状況、新型コロナウイルスの影響	

【※1】この他、東日本大震災での被災により県外へ避難した利用者を含む。【※2】クーポン利用率は利用額/給付額。利用されなかったクーポンは次年度以降のクーポン費として充当される。【※3】アンケート及びヒアリング回答を基に算出。アンケート及びヒアリング回答率は、通常枠85.5%、緊急支援枠76.5%。【※4】希望進路達成率は、進学者および就職者によるアンケートを実施。なお、無回答者は母母に含めない。【※5】推薦制度については、指定機関(自治体・支援団体等)より推薦・紹介を受けた生活困難者より申込を受け、先着順で利用者を決定。

2022年度の計画 (2021年度にいただいた寄付金の使途)

2022年度は、1億5,165万円分のクーポンを657名の子どもへ提供

2021年度にいただいたスタディクーポン事業への指定寄付金・賛助会費2億1,008万円のうち、85.1%にあたる1億7,876万円を事業費として使用します。このうち、1億3,655万円をスタディクーポンに充当し、運営費指定寄付金のクーポン充当分等を加え、2022年度は総額1億5,165万円分のクーポンを657名の子どもたちに提供する予定です。残り4,221万円は、事業運営費として使用します。事業運営費の内訳は、クーポン利用者募集審査、利用者のサポート(コーディネーターによる相談支援、大学生ボランティア育成や定期面談)、教育事業者の募集審査、効果検証などの費用です。



スタディクーポン指定寄付金・会費使途に関するお約束

- 1 寄付金の85%[※]以上を子どもへの直接的な支援費として使用
※65%以上をスタディクーポン費、残り20%程度を事業運営費に充当。
- 2 寄付金の15%未満を法人の管理費[※]として使用
※子どもたちを間接的に支えるための費用。管理を行う職員の人件費、広報費等。

ご支援いただいた皆さま

2021年度は延べ2,857名以上の個人の皆さま、119社の企業・団体の皆さまからご寄付をいただきました。温かいご支援、本当にありがとうございました。

企業・団体支援者

※スペースの関係で、一定額以上のご寄付をいただいた方のみを掲載しています。また、匿名希望者は掲載していません。※敬称略

2010オリーブの木 / &Room / 株式会社インフォーマ / 株式会社栄光 / 株式会社公文教育研究会 / クリフォードチャンス法律事務所外国法共同事業 / 国際ソロブチスト東京-新宿 / 特定非営利活動法人CoCoLo / 株式会社 Special Medico / 大器株式会社 / 株式会社Tポイント・ジャパン(Tポイント募金) / テクタイト株式会社 / 株式会社トントシステム / 株式会社バリュース / 株式会社PEEP / 株式会社BE PROUD / 株式会社Box Japan / 三菱地所ハウスネット株式会社 / 株式会社リミックスポイント

助成団体

正味財産増減計算書の要旨 (2021年4月1日から2022年3月31日まで)

	科目	金額(円)
一般正味財産増減の部	1 受託事業収益	67,720,724
	2 受取入金金・会費	1,900,000
	3 受取寄付金等振替額(指定正味財産からの振替額)	250,990,375
	4 雑収益	395,248
	収益計	321,006,347
	1 事業費	293,034,293
	CFCスタディクーポン事業費(自主事業)	208,734,362
	自治体等協働事業費(受託事業等)	84,299,931
	2 管理費	20,663,761
	費用計	313,698,054
	当期経常増減額	7,308,293
	当期経常外増減額	▲17,100
	法人税等	173,300
	当期一般正味財産増減額	7,117,893
一般正味財産期首残高	11,376,992	
一般正味財産期末残高	18,494,885	
指定正味財産増減の部	1 受取賛助会費	60,288,000
	2 受取寄付金	184,590,593
	3 受取補助金等	47,423,717
	4 受取補助金等返還	▲660,772
	5 特定資産評価損益	1,747,226
	6 一般正味財産への振替額	▲250,990,375
	当期指定正味財産増減額	42,398,389
	指定正味財産期首残高	259,923,631
指定正味財産期末残高	302,322,020	
正味財産期末残高	320,816,905	

貸借対照表の要旨 (2022年3月31日現在)

	科目	金額(円)
資産の部	1 流動資産	49,542,297
	普通預金	38,725,605
	未収入金等	10,816,692
	2 固定資産	307,097,252
	特定資産	302,322,020
	その他固定資産	4,775,232
3 繰延資産	266,667	
資産の部合計	356,906,216	
負債の部	1 流動負債	36,089,311
	未払金等	36,089,311
負債の部合計	36,089,311	
正味財産の部	1 一般正味財産	18,494,885
	(うち当期一般正味財産増減額)	7,117,893
	2 指定正味財産	302,322,020
	(うち当期指定正味財産増減額)	42,398,389
	正味財産の部合計	320,816,905
負債及び正味財産合計	356,906,216	

貸借対照表、正味財産増減計算書(損益計算書)及び財産目録は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

監事 藤井美明 監事 保本祥史

詳細は、WEBサイトで公開している財務諸表(PDF)をご覧ください。

<https://cfc.or.jp/about/finance/>

ご支援のお願い

継続的なご支援「CFCサポート会員」

毎月1,000円～のご寄付で、子どもたちを支える方法です。

CFCサポート会員は下記のWEBサイトからクレジットカードもしくは口座からの自動引落でお申し込みいただけます。

VISA JCB mastercard AMERICAN EXPRESS Diners Club INTERNATIONAL

CFC 寄付 検索



<https://cfc.or.jp/support/>

※サポート会費は、スタディクーポン事業指定寄付金となります。

今回のみのご支援

ご都合の良いときに、任意の金額をご寄付いただけます。

金融機関 三井住友銀行 亀戸支店(支店コード:254)
 銀行口座 口座番号 普通 7862751
 口座名義 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

ゆうちょ銀行 記号・番号 00160-6-265327
 (郵便振替) 口座名義 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

※クレジットカードでのご寄付は左記WEBサイトから受け付けております。※銀行口座へのお振込みの方で、領収書が必要な方はチャンス・フォー・チルドレン事務局までご連絡ください。